

■ 椎葉村立椎葉小学校

開催日：令和6年6月27日（木）9時25分～11時10分

受講者：3・4年生 18名

5・6年生 19名

講師：大館 真晴 氏

・応募のきっかけ

⇒椎葉村の学校では、総合的な学習の時間で椎葉村のことについて学んでいる。

また、生徒の中には神楽を舞っている子もいるが、意味を知らないまま舞っていたりするようである。椎葉村に伝わる神楽とひえつき節についてより深く学んでほしいと思い応募した。



椎葉の神楽に伝わる「板起し」は猪の肉を切って振る舞うという舞であり、椎葉周辺にしか残されていない貴重な舞とされています。

また、神楽やお祭りでは、神様にささげた食べ物を頂く「共食・直会きょうしょく なおらい」がありますが、これは神様と同じものを食べることにより、神様の力を得られると考えられていたものです。



椎葉のひえつき節は稗をつく際の労働歌であり、リズムをとることで安全につくことができ、また、歌うことで元気を出すために歌われてきました。

明治以前は椎葉各地で異なる歌詞のひえつき節が唄われていましたが、明治時代に村民誰もが唄える歌詞にしてほしいとの希望を受け、当時諸塚に赴任していた先生が考えたものが今のひえつき節。椎葉村民ならだれもが知っている鶴富姫の物語を歌詞にしています。

・生徒の感想

⇒・ひえつき節の歌詞の意味や鶴富姫と大八郎の物語について、今まで知らなかったことが知れてよかった。

・人々が力を合わせて支えているから神楽は続いていることが分かった。